

令和6年度



川口市立芝中学校

第1学年

各教科シラバス

(学習目標・学習計画・学習内容・評価規準等)

学習案内（シラバス）とは

学習案内（シラバス）とは、各教科の学習の目標、学習の内容、評価の観点と方法などについてまとめたものです。生徒のみなさんには、より効果的に学習をすすめるために、また、保護者の方々には、本校の教育活動のより深い理解に役立つものです。

学習指導要領の基本的なねらいとは

令和3年度から全面実施となっている中学校学習指導要領では、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合い関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、あらゆる他者を価値ある存在として認め、共に協働できるなど、幸福な人生の作り手及びよりよい社会の作り手となっていけるようにすることを重要視しています。

学習指導要領が目指す評価とは

評価は、子どもたちに、学習指導要領が目指す力をどの程度身に付けているかという学習状況を示すとともに、子どもたちのよさや可能性を引き出し、学習意欲を高めさせるためのものです。

※観点別評価の評価内容

①知識・技能

⇒ 各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

②思考・判断・表現

⇒ 各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

③主体的に学習に取り組む態度

⇒ 知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

* 「粘り強い取り組み」とは、その取り組みが、教科の達成すべき目標に向かっている姿を意味しています。

* 「学習を調整する」とは、課題解決に向けた学びの方向を見通すこと、学びの方向を必要に応じて修正すること、学習成果として何が大切か否かを振り返ること、理解・表現した内容が妥当か吟味すること、他者と協働して最善解や納得解に向かうこと、課題解決に向けて自らを問い直し、問い続けること、などを意味しています。

* 学習指導要領とは・・・

！ 全国のどこで教育を受けても、一定の水準の教育が受けられるようにするため、それぞ
！ れの学校のカリキュラムを編成する上での規準となるものが、学習指導要領です。

通知表の見方について

本校では、生徒が学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を充実させるために、次のように評価・評定を行います。

1 教科の評価・評定について

(1) 観点別評価

- ① 学習単元・内容ごとにABCの3段階で絶対評価をします。
- ② 評価規準
『A』…十分に満足できると判断されるもの
『B』…おおむね満足できると判断されるもの
『C』…努力を要すると判断されるもの

(2) 評定

- ① 学期ごと及び学年で5段階評定をします。
- ② 評価規準
『5』…十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
『4』…十分満足できると判断されるもの
『3』…おおむね満足できると判断されるもの
『2』…努力を要すると判断されるもの
『1』…一層努力を要すると判断されるもの

(3) 評価の素材

ペーパーテスト（定期テスト、単元テスト、小テスト）、レポート、ノート、ワークシート、ワーク、実験、実技テスト、作品、授業の観察（態度、挙手、発言、発表、忘れ物、係の仕事、片付け等）、話し合い活動（グループでの協議、スピーチ、ディベート、ディスカッション）、提出物、生徒の自己評価や相互評価などで評価します。



2 総合的な学習の時間の評価・評定

(1) 学習活動

課題の設定、調査活動、体験活動、発表活動等

(2) 評価の観点

- ①明確な学習のねらいを持っている。
- ②学習を通して興味関心を一層深めることができた。
- ③学習を通して自分なりの考えを持つことができた。

(3) 評価…文章表記による評価をします。

芝中学校の重点目標

全国学力学習状況調査・埼玉県学力学習状況調査の分析を受け、本校では今年度、下記の項目に重点的に取り組みます。

- ① 授業形態を工夫し、話を聞き発表する力を高める。特に、自分の考えをしっかりと自分の言葉で伝えられる表現力や、周囲との良好な関係を構築していくためのコミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 教科の系統性(=学習内容が何につながり、どのようなことに役立つか。)を明確にし、学習意欲や興味関心を高める。
各教科の「3 身に付けさせたい力」の欄に、授業で実施していく具体的な取り組みを記載しました。(★の部分)お読みください。

国語科 第1学年 シラバス

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 学習のアドバイス

- ① 積極的に発言をしよう。そのためにも友達の発言はしっかり聞こう。
- ② 発言はしっかり返事をしてから立ち、友達みんなに聞こえる声の大きさで。
- ③ 提出物は期限を守って忘れずに提出しよう。
- ④ ノートはただ板書を写すのではなく、自分で工夫しながら作ろう。

3 身に付けさせたい力

- ① 国語を適切に表現する力
- ② 国語を正確に理解する力
- ③ 国語を伝え合う力
- ★ 話を聞き発表する力を育てる取り組み
・ ペアや班での話し合い活動を行う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしていくしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使うようとしている。
評価方法	テスト ノート 提出物	テスト ノート 提出物	授業の記録 振り返り 観察 ワークシート

5 授業計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>朝のリレー 野原はうたう 声を届ける 書き留める 言葉を調べる</p>	<p>○国語で何を学ぶのかを考える。 ○「野原はうたう」の二つの詩を情景や心情を想像しながら音読する。</p>	<p>① 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ② 詩を音読するとき、どんな工夫をするとよいかグループで話し合い、効果的な表現の仕方を考えようとしている。 ③ 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。</p>
	<p>シンシユン</p>	<p>○作品の全体像を捉え、登場人物や語り手を確かめる。 ○場面の展開に沿って登場人物の関係の変化を整理する。</p>	<p>① 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ③ 場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。</p>
	<p>【聞く】情報を的確に聞き取る</p>	<p>○情報を的確に聞き取る必要がある場面を挙げ、要点を押さえて書き留めることの大切さを理解する。 ○効果的なメモの取り方を確かめる。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 ② 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 ③ 進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。</p>
	<p>情報整理のレッスン 比較・分類 情報を整理して書こう わかりやすく説明する</p>	<p>○情報を比較・分類する方法を確かめる。 ○情報を集め、整理し、「おすすめの場所」を紹介することを確認し、目的と相手、説明する題材を決める。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 ② 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ③ 集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。</p>
	<p>ダイコンは大きな根？</p>	<p>○文章の中心的な部分を捉える。 ○段落の役割について考え、わかりやすく説明するための筆者の工夫について発表する。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 ② 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 ③ 文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。</p>

<p>ちょっと立ち止まって</p>	<p>○文章の構成に着目し、要旨を捉え、筆者の考えを基に、文章の要旨をまとめる。 ○図の効果や、結論を導くために序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。</p>	<p>①</p>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p>
		<p>②</p>	<p>「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p>
		<p>③</p>	<p>進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>思考のレッスン1 意見と根拠 話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する」</p>	<p>○意見と根拠の結び付きを考える。 ○聞き手にとってわかりやすい話の順序を考え、構成案を基に、スピーチメモを作り、スピーチの会を開く。</p>	<p>①</p>	<p>音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。</p>
		<p>②</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。</p>
		<p>③</p>	<p>話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>
<p>情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう</p>	<p>○調べる内容を絞り込み、調べ方を考え、情報を集める。 ○情報を読み取り、情報の適切な引用のしかたを考える。</p>	<p>①</p>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p>
		<p>②</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p>
		<p>③</p>	<p>引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。</p>
<p>詩の世界 【書く】詩を作ろう</p>		<p>①</p>	<p>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に、意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>
		<p>②</p>	<p>「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p>
		<p>③</p>	<p>文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>
<p>比喩で広がる言葉の世界</p>	<p>○段落の役割を押さえて読み、内容を捉え、「比喩」が、文中でどのように定義されているかを確認する。 ○言葉について考える。</p>	<p>①</p>	<p>比喩などの表現の技法を理解し使っている。</p>
		<p>②</p>	<p>「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p>
		<p>③</p>	<p>進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>
<p>本の中の中学生 あと少し、もう少し</p>	<p>○「本の中の中学生」の三編の作品を読む。 ○学校図書館などを利用し</p>	<p>①</p>	<p>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p>

西の魔女が死んだ ブラインドの向こうに見える光	て、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。	②	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。
		③	文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
大人になれなかった弟たちに……	○描写に着目して登場人物の心情を捉える。 ○題名のもつ意味について考え、表記に込められた、作者の意図を考える。	①	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。
		②	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。
		③	登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。
星の花が降るころに	○「私」を中心に作品の内容を押さえ、場面や描写を結び付けて読む。 ○様子や動きを何かにとれた表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。	①	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。
		②	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。
		③	進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
聞き上手になろう 質問で話を引き出す	○きき方の工夫や質問の種類を知る。 ○「夏休みのいちばんの思い出」をテーマに、対話の練習をする。	①	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。
		②	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。
		③	進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。
項目を立てて書こう 案内文を書く	○案内文の書き方を確かめ、案内する事柄と相手を決め、情報を整理する。 ○相手にわかりやすいよう、項目の順序や表現を工夫し、案内文を作成する。	①	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。
		②	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。
		③	集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。
【推敲】読み手の立場に立つ	○読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 ○書きかえた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。	①	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
		②	「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。

		③ 粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。
「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	○文章の構成と内容を捉え、筆者がどのような事実を基に、どのような仮説を立てたかを確認する。 ○結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる。	① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
		② 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。
		③ 文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	○課題を決め、調査を行う。 ○調査結果を整理し、構成を考え、図表などを引用してレポートを作成する。	① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。
		② 「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。
		③ 文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする	○話し合いの話題を決め、目的を明確にして、自分の考えをまとめる。 ○司会と書記を決め、グループで話し合う。	① 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
		② 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。
		③ 積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
音読を楽しもう 大阿蘇	○言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 ○繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。	① 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
		② 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。
		③ 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
音読を楽しもう いろは歌 古典の世界 宝来の玉の枝 ―「竹取物語」から	○古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。 ○古典の文章について、現代の文章との違いを確かめ、描かれている古典の世界を想像する。	① 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。
		② 「読むこと」において場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉えている。
		③ 進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。

<p>今に生きる言葉 【書く】故事成語を使って体験文を書こう</p>	<p>○漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しみ、故事成語について理解する。 ○故事成語を使って、体験文を書く。</p>	<p>① 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 ② 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 ③ 積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>
<p>「不便」の価値を見つめ直す 【書く】根拠を明確にして、意見をまとめよう</p>	<p>○本文を通読し、内容を捉え、筆者の考えを要約する。 ○根拠を明確にして、意見をまとめる。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ② 「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ③ 積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
<p>助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く</p>	<p>○作品を選び、内容や魅力を分析し、どの観点から論じるかを決め、書評を書く。 ○友達どうしで書評を読み、助言し合う。</p>	<p>① 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 ② 「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 ③ 読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。</p>
<p>考える人になろう 君たちはどう生きるか 楽しい制約 読書案内 本の世界を広げよう</p>	<p>○文章を読み、筆者のものの見方や考え方を捉える。 ○文章を読んで考えたことをグループで発表し合う。</p>	<p>① 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ③ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>少年の日の思い出 【書く】別の人物の視点から文章を書き換えよう</p>	<p>○作品の展開を捉え、「僕」の心情の変化をまとめる。 ○別の人物の視点から文章を書き換え、創作する。</p>	<p>① 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 ③ 文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>

<p>随筆二編</p>	<p>○ 語句や表現の工夫に着目し、作品を通読する。 ○ 筆者の考えや思いについて話し合い、自分の体験を振り返って伝え合う。</p>	<p>① 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中を使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>② 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。</p> <p>③ 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く</p>	<p>○ 随筆に取り上げたい体験を思い出し、題材を選ぶ。 ○ 具体的な材料を書き出し、構成を考え、随筆を書く</p>	<p>① 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中を使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>② 「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>③ 粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。</p>
<p>一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する</p>	<p>○ 観点を決め、一年間の学習を振り返る。 ○ 集めた情報を整理し、発表内容を決め、話の構成を考え、フリップを作り、グループ内で発表する。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>② 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>③ 集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。</p>
<p>さくらの はなびら</p>	<p>○ 詩を読み、印象に残った表現を発表する。 ○ 表現の意味を考え、作者の思いについて語り合う。</p>	<p>① 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。</p> <p>② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。</p> <p>③ 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>学習を振り返ろう</p>	<p>○ 説明文を読み、学習課題に取り組む。 ○ 方言に関するスピーチを聞き、学習課題に取り組む。</p>	<p>① 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。</p> <p>③ 今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>

社会科 第1学年 シラバス

1 学習のねらい

- 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。
- わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培う。
- 国際社会に生きる民主的、平和的國家・社会の形成者として必要な公民的な資質の基礎を養う。

2 学習のアドバイス

- ① わが国や世界の地形、気候、産業や人々の生活や文化に関心をもち、すすんで学習しよう。
- ② わが国や世界の歴史に関心をもち、現代に生きるわたしたちとの関わりを理解しよう。
- ③ 地理的事象、歴史的事象の学び方を身につけよう。
- ④ 地図や資料などをすすんで活用しよう。

3 身につけさせたい力

- ★話し合いの活動を取り入れ、説明したり、発表の力をつけます。
- ★感想や振り返りの場を取り入れ、文章や図などで表現する力をつけます。
- ★身の回りの社会的事象や、歴史について探究する力をつけます。

4 評価の規準と評価の方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・日本及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	・地理的事象や歴史的事象から課題を見いだし、その特色、意義、関連などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
評価の方法	定期テスト、小テスト、レポートなどで評価します。	定期テスト、ノート、授業中の発言、レポートなどで評価します。	毎授業の振り返りシート、単元ごとのまとめ、授業中の挙手などで評価します。

5 授業計画

単元名	学習内容	評価の観点
【地理的分野】 第1章 世界の姿	①地球の姿 ②地球儀と世界地図の比較 ③地球上の位置 ④世界の国々と地域区分 ⑤主な国々の国名と位置	① 世界の六大陸三大洋、主な国の名称と位置、経度と緯度の仕組み、世界地図の特色を理解し、これらを活用することができる。
		② 国名や国旗、国境線の特徴などから、地理的事象との関連を考察することができる。
		③ 世界や日本の姿について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
第2編 日本のさまざまな地域 第1章 日本の姿	①日本の位置を調べよう ②日本と世界との時差をとらえよう ③日本の領域の特色を見てみよう ④いろいろな見方で都道府県を探そう ⑤日本をいくつかの地域に分けよう	① わが国の国土の特色を理解し、地図帳、映像資料などから特色を読み取ることができる。
		② わが国の国土の特色について多面的・多角的な思考や判断を行うことができる。
		③ 日本の姿について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
第2章 世界各地の 人々の生活と環境	①雪と氷の中で暮らす人々 ②寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 ③温暖な土地に暮らす人々 ④乾燥した土地に暮らす人々 ⑤常夏の島で暮らす人々 ⑥標高の高い土地に暮らす人々 ⑦世界の気候区 ⑧人々の生活に根付く宗教 ⑨伝統的な生活とその変化	① 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることや人々の生活や変容を基に、人々の生活や環境の多様性を理解している。
		② 世界の人々の生活を、自然と社会的条件と関連させて考察し、判断することができる
		③ 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
第3章 世界の諸地域	①アジア州 ②ヨーロッパ州 ③アフリカ州 ④北アメリカ州 ⑤南アメリカ州 ⑥オセアニア州	① 各州の特色を理解し、資料から地理的事象を読み取り、まとめることができる。
		② 各州の特色を、わが国と関連させながら、考え判断することができる。
		③ 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
【歴史的分野】 第1章 歴史へのとびら 第2章 古代までの日本 第3章 中世の日本	① 歴史をとらえる見方・考え方 ② 世界の古代文明と宗教のおこり ③ 日本列島の誕生と大陸との交流 ④ 古代国家の歩みと東アジア世界 ⑤ 武士の政権の成立 ⑥ ユーラシアの動きと武士の政治の展開	① 古代から中世の歴史的事象を基に時代の流れや文化などを理解している。
		② 古代から中世における人々の生活や文化を大観し時代の特色を多面的・多角的に考察表現している。
		③ 古代から中世について、人々の生活や文化の特色を背景にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。

数学科 第1学年 シラバス

1 教科の目標

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、物事を数学的に考える力を身に付けること。
また、数学が生活や問題解決に役立つことを知り、数学のよさを理解すること。

2 学習のアドバイス

* 1年生で学ぶ内容は、2・3年生の土台となります。
土台をしっかり固めるためには…
①復習を怠らないこと。
②間違えた問題は正答できるまで繰り返しやり直すこと。
③わからない問題は先生や友達に聞いて解決すること。
④小学校の数学と関連付けて勉強しよう。

3 身に付けさせたい力

- ★自分の考えを書く力
- ・ノートの取り方の工夫
- ★自分の考えを説明する力
- ・グループに分かれ、説明しあう機会を増やす。
- ・教え合う活動を取り入れる。
- ★他者の説明を聞く力
- ・授業規律を整える。
- ・他者の意見をメモする習慣をつける。
- ★計算力
- ・定期テストの直し直しを行う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	正の数と負の数，文字を用いた式と一元一次方程式，平面図形と空間図形，比例と反比例，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数理的に捉えたり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲を拡張し，数の性質や計算について考察したり，文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力，図形の構成要素や構成の仕方に着目し，図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察する力，数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし，その特徴を表，式，グラフなどで考察する力，データの分布に着目し，その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度，多面的に捉え感が酔うとする態度を養う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度，挙手，忘れ物等 ・小テスト ・提出物

5 授業計画

	単元目標	学習内容	評価の観点
正の数と負の数	<ul style="list-style-type: none"> 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。 正の数と負の数の四則計算をすること。 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること。 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること。 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 0より小さい数 正の数・負の数で量を表すこと 絶対値と数の大小 正の数・負の数の加法, 減法 正の数・負の数の乗法, 除法 いろいろな計算 数の世界のひろがり 正の数, 負の数の利用 	① <ul style="list-style-type: none"> 正の数と負の数の必要性和意味を理解している。 正の数と負の数の四則計算をすることができる。 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。
			② <ul style="list-style-type: none"> 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。
			③ <ul style="list-style-type: none"> 正の数と負の数のよさに気付いて粘り強く考え、正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。
文字の式	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いることの必要性和意味を理解すること。 文字を用いた式における情報と除法の表し方を知ること。 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量を文字で表すこと 文字式の表し方 式の値 文字式の加法, 減法 文字式と数の乗法, 除法 関係を表す式 	① <ul style="list-style-type: none"> 文字を用いることの必要性和意味を理解している。 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知っている。 簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解している。 数量の関係や法則などを式を用いてあらわめしたり読み取ったりすることができる。
			② <ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。
			③ <ul style="list-style-type: none"> 文字を用いることのよさに気づいて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。
方程式	<ul style="list-style-type: none"> 方程式の必要性和意味および方程式の中の文字や解の意味を理解すること。 簡単な一元一次方程式を解くこと。 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。 一元一次方程式を具体的な場面 	<ul style="list-style-type: none"> 方程式とその解 方程式の解き方 比と比例式 方程式の利用 比例式の利用 	① <ul style="list-style-type: none"> 方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。 簡単な一元一次方程式を解くことができる。
			② <ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。

	で活用すること。		③	<ul style="list-style-type: none"> 方程式のよさに気づいて粘り強く考え、方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
変化と対応	<ul style="list-style-type: none"> 関数関係の意味を理解すること。 比例，反比例について理解すること。 座標の意味を理解すること。 比例，反比例を表，式，グラフなどに表すこと。 比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。 比例，反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数 ○比例の式 ○座標 ○比例のグラフ ○反比例の式 ○反比例のグラフ ○比例，反比例の利用 	①	<ul style="list-style-type: none"> 関数関係の意味を理解している。 比例，反比例について理解している。 座標の意味を理解している。 比例，反比例を表，式，グラフなどに表すことができる。
			②	<ul style="list-style-type: none"> 比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 比例，反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
			③	<ul style="list-style-type: none"> 比例，反比例のよさに気づいて粘り強く考え，比例，反比例について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり，比例，反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
平面図形	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線，線分の垂直二等分線，推薦などの基本的な作図の方法を理解すること。 平行移動，対称移動および回転移動について理解すること。 図形の性質に着目し，基本的な作図の方法を考察し表現すること。 図形の移動に着目し，二つの図形の関係について考察し表現すること。 基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○直線と図形 ○図形の移動 ○基本の作図 ○図形の移動と基本の作図の利用 ○円とおうぎ形の性質 ○円とおうぎ形の計量 	①	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 平行移動，対称移動および回転移動について理解している。
			②	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質に着目し，基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 図形の移動に着目し，二つの図形の関係について考察し表現することができる。 基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。
			③	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形の性質や関係を捉えることの良さに気づいて粘り強く考え，平面図形について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり，作図や図形の移動を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
空間図形	<ul style="list-style-type: none"> 空間における直線や平面の位置関係を知ること。 おうぎ形の長さや面積，基本的な柱体や錐体，球の表面積と体積を求めること。 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな立体 ○空間内の平面と直線 ○立体の構成 ○立体の体積 ○立体の表面積 	①	<ul style="list-style-type: none"> 空間における直線や平面の位置関係を知っている。 おうぎ形の弧の長さや面積，基本的な柱体や錐体，球の表面積と体積を求めることができる。

	<p>えたり，空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること。 		②	<ul style="list-style-type: none"> 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり，空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすることができる。 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること。 目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断すること。 多数の観察や多数回の思考によって得られる確率の必要性和意味を理解すること。 多数の観察や多数回の思考の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○データを活用して，問題を解決しよう ○整理されたデータから読み取る ○相対度数と確率 	①	<ul style="list-style-type: none"> ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 多数の観察や多数回の思考によって得られる確率の必要性和意味を理解している。
			②	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。 多数の観察や多数回の思考の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。
			③	<ul style="list-style-type: none"> ヒストグラムや相対度数などのよさに気づいて粘り強く考え，データの分布について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり，ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり，多面的に捉え考えようとしている。 多数の観察や多数回の思考によって得られる確率のよさに気づいて粘り強く考え，不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。

理科 第1学年 シラバス

1 教科の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習のアドバイス

- ①身近な自然事象と学習内容を重ねて学習する。
- ②実験において基礎的な実験技術を身につける。
- ③正しく安全に観察・実験をする。
- ④ワークで実力をためす。
- ⑤実験や観察から規則性を見つける。

3 身に付けさせたい力

- ①自然の事物・現象に進んで関わろうとする意欲
- ②科学的に探求する能力・科学的な見方や考え方
- ③観察・実験の技能
- ④自然の事物・現象についての理解力
- ★班活動を取り入れる。役割分担を行う。班でまとめたことを書かせる活動を行う。
- ★単元の最初にブレインストーミング(日常生活や他の単元との関連付け)をする。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	正しく安全に観察実験する。 実験器具の正しく操作する。 理科の用語の意味、基本的な知識を適切に理解する。	実験や観察から規則性を見つける。考える。 実験の結果をまとめて発表する。	理科の学習に興味を持ち意欲的に取り組むことができる。 積極的に発言する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト ・ 小テスト ・ 授業中のノートのまとめ方 ・ スケッチ、グラフ ・ パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト ・ 小テスト ・ 授業中の考察、観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の挙手発言 ・ ノート、問題集の提出物 ・ 忘れ物

5 授業計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>(1) 自然現象を巨視的に把握して理解させ、これらの自然事象に対する科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>(2) 正しい器具操作による観察・実験を行い、課題を解決する方法を習得させる。</p>	1 生物の世界	<p>(1) 身近な生物の観察</p> <p>(2) 植物のなかま</p> <p>(3) 動物のなかま</p>	<p>① いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>② 身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現している。</p> <p>③ いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>
	2 物質のすがた	<p>(1) いろいろな物質</p> <p>(2) 気体の発生と性質</p> <p>(3) 物質の状態変化</p> <p>(4) 水溶液</p>	<p>① 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、物質の姿、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。</p> <p>② 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見だして表現している。</p> <p>③ 身の回りの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>
	3 身近な物理現象	<p>(1) 光の性質</p> <p>(2) 音の性質</p> <p>(3) 力のはたらき</p>	<p>① 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら。光と音、力の働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>② 身近な物理現象について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現している。</p> <p>③ 身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>

	<p>4 大地の変化</p>	<p>(1)火山 (2)地震 (3)地層 (4)大地の変動</p>	<p>①大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解しているとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>②大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現している。</p> <p>③大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>
--	----------------	---	---

音楽科 シラバス

1 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を目指す。

2 学習のアドバイス

- ・心から音楽を楽しむこと。まずは、楽しもうとする姿勢が大切である。
- ・仲間と協力し合い、美しい音楽を作っていくこと。
- ・歌は体が楽器です。正しい姿勢や発声など気を付けること。
- ・上手になりたいという向上心を持つこと。
- ・どうしたら上手くなるのか考え行動する研究心を持つこと。
- ・楽譜を読める、書けるように学習に取り組むこと。

3 身に着けさせたい力

- ・美しいものを聴いて美しいと感じる感性。
- ・楽曲を聴いて理論的に説明できる力。
- ・作曲者の考えを楽譜から読み取る能力。
- ・正しい奏法を身に着けるとともに、音楽で想いを表現する能力。
- ・仲間と協働しながら、音楽表現を生み出していく力。
- ・たくさんの感動を通して、心を育んでいく。

4 評価の観点・評価方法

評価の観点	評価基準	方法例
① 知識及び技能	音楽を形づくっている要素を知覚し学習をすることを通して、曲想や音楽の構造、歌詞の内容などの理解を深め、基礎的な技能（歌唱・器楽：発声や発音、体の使い方など 創作：音の選択や組み合わせ方など）が身についている。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
② 思考・判断・表現	表現の活動を通して、音楽を形づくっている要素を生かしながら、表現を創意工夫することができている。また、鑑賞の活動を通して、曲や演奏に対する評価、社会における意味や役割、表現の共通性や固有性、などを味わって聴くことができる。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組み、自分の課題を見つけ、それを乗り越えるために努力しようとしているか。他者と教え合い活動などを通して、協力しながら学習に取り組むことができる。音楽を自ら楽しむ心を忘れず、音楽に親しんでいこうとする態度。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト

5 授業計画

○第1学年

	教材名	学習目標	評価の観点
歌唱	<ul style="list-style-type: none"> 校歌 We' ll Find The Way 僕らの奇跡 浜辺の歌 (共通教材) 赤とんぼ (共通教材) 合唱コンクール 三送会 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な歌い方を身に着けよう大きな声で歌おう パートの役割を感じ取って合唱しよう 情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おう 曲想を生かして合唱しよう みんなと歌う喜びを感じよう 思いを込めて明るい声で合唱しよう 曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう 	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の抑揚、体の使い方、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表現している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている
			③ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている
器楽	弦楽器 <ul style="list-style-type: none"> 音階 箏 <ul style="list-style-type: none"> さくら 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な奏法を身に着けよう 曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう 唱歌を歌ったり弾いたりしながら、箏の音楽の特徴を感じ取ろう。 	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表現している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている
			③ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている
創作	<ul style="list-style-type: none"> リズムゲーム リズムチャレンジ My Melody 	<ul style="list-style-type: none"> 音符について理解しよう 音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう。 	① 音のつながり方や特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている
			③ 音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 春 魔王 六段の調 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の特徴に着目しながら、情景を思い浮かべてきこう。 曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう。 日本に古くから伝わる箏の音楽を聴こう。 	① 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている
			③ 音楽活動を楽しみながら、関心をもって主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている

美術科 シラバス(学習案内)

1. 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1学年

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2. 3学年

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2. 学習のアドバイスなど

美術は日常生活と深く結びついています。普段の生活経験の中で得る知識や感じ方の積み重ねで「美しさやよさの価値観」が醸成されてきます。ぜひ普段の生活のなかで、いろいろなことを自分で考え、自分で表現したり、答えを導き出すなどの習慣を身につけましょう。また授業で与えられた課題には主体的に関わり、最後までしっかり仕上げていくことが大切です。達成感が味わえるように集中して制作に励んで欲しいと思います。

3. 身につけさせたい力

- ★・美術の表現の学習を通して、日常生活との関わりを考え、主体的に課題に関わる知識や技能を身に付けようとする態度を養う。
- ★・美術の鑑賞の学習を通して、日本や世界の美術文化および他の文化に対する感念の価値観を育むとともに心豊かに生活する態度を養う。

4. 評価基準と方法

評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全かつ適切に扱い、表現意図に応じた材料や用具の基礎的スキルを生かして表現する。 ・美しさやよさなどを総合的に考えながら自分らしく創造的な工夫をして表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で深く観察し、形や色彩の特徴、よさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて豊かに主題を発想する。 ・多様なものの見方をもって発想し、心豊かに作品を創意工夫しようとする。 ・自他の作品のよさや美しさを感じ、言語活動も含めて表現する。 	<p>多様な美術文化に関心を持ち、自らの感性を働かせ、対象や表現のよさ、美しさを感じ取りながら意欲的に学習に取り組む。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・用具等の適切な扱い。 ・表現意図に応じた基礎的な表現方法など 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色の特徴やよさを生かした適切な表現内容。 ・豊かな発想に基づいた表現方法や独創的な工夫など。 ・鑑賞レポートや発言等で作品のメッセージ性などを感じ取り適切な表現をしている。 	<p>プリントや作品制作活動、鑑賞の記録などの学習活動の意欲的で主体的な取り組みの様子。</p>

美術科 1学年 年間授業案内

学期	題材名	目的	具体的作品像・イメージなど	主な素材	道具・準備・取りくみ備考
1	鉛筆デッサン	鉛筆の基礎知識、ものの見方について学習をする。	鉛筆を使ってデッサンをする。「身近なもの」「自分の気に入っているもの」などを見つめて、鉛筆の濃淡を使って立体感や質感を表現する。		画用紙、モチーフ、B以上の軟質鉛筆、
	レタリングの学習と絵文字の制作	見やすく美しい文字のデザインと書き方を学習し、基本的な書体の書き方を覚える。それを応用して文字とイラストを組み合わせた絵文字を制作する。色についての基礎知識や絵の具の塗り方も学習する。	レタリング事典を見ながら、文字のいろいろなデザインを知り、書き方を覚える。自分の好きな漢字一文字とその漢字が持つ意味のイラストを組み合わせで絵文字をデザインする。		プリント、イラストボード、B以上の軟質鉛筆、アクリル絵の具、レタリング事典
夏季休業課題	郷土を見つめて	「わたしの郷土」をテーマに水彩画を描く。選抜作品は「郷土を描く児童生徒美術展」に出品	身近な風景、広がりのある風景。行事の風景など。またその他、「郷土」をテーマとしたデザイン平面作品なども可		指定用紙を1学期終了時に配布します。水彩絵の具等で着彩して2学期に提出して下さい。
2	ボックスアート	自分の好きな時間を箱の中に再現する。制作計画を立てる。	アイデアスケッチ		プリント、参考資料
		箱の中に背景を描く。	絵の具を使って背景を描く。自分の表したい場面をいかに引き立てるかを考えて描く。	板材のボックス	木工用ボンド、絵の具など
		紙粘土で人物をつくる。自分のつくりたい場面を表現するためにはどうしたら伝わるかを考えて、生き生きとした人物をつくる。	立体的な表現になるので、いろいろな方向から見ながらつくる。	紙粘土	紙粘土、粘土ベラ、芯材、絵の具など
冬季休業課題	鑑賞会	友達の作品を鑑賞して、作品のよさに気づき、今後の自分の制作に活かす。	ボックスアートの鑑賞会		作品、鑑賞レポート
3	色と形のハーモニー (自然物からの構成)	基礎知識を踏まえた上で、実践的な構成力を養う。	時間短縮により自然物スケッチを簡略化(「WATCH」を参照～単純化～構成)	ワークシート・色鉛筆など、持ち込み色紙	自然物からのスケッチ(簡易)単純化～構成、アイデアスケッチ～定規、コンパスなどの使用
		形と色、大きさなど「構成美の要素」を具体的に意識した構成デザイン制作を通してメッセージを考え、主題を引き出す。	形の上下関係を考えながら部品づくり、画面構成を進める。	トータルカラー持ち込み紙・のり。カッター類	構成部品の切り抜き～画面構成のりづけ・カッター、スティックのり
		題名を決め、掲示による鑑賞を目的にする。	B4の大きさをラミネート	作品ラミネーター	入学式時期を目安に完成させたい。
	作家の生き方から学ぶ	有名な画家の作品を鑑賞して、芸術家がどのように制作をしていたのかを学習する。	資料集からいくつかの作品を紹介し、その中から好きな作家を選び、レポートを書く。		資料集、レポート用紙

保健体育科 シラバス

- 1 学習のねらい 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。
 2 学習のアドバイス

3 身に付けさせたい力

- ① 学習規律を守り、進んで楽しく活動しよう。② 意欲的に課題解決に取り組もう。
 ③ 仲間と協力して取り組もう。 ④ 自己やグループの課題に合った練習を選択しよう。
 ⑤ 運動の特性を理解し、楽しさや喜びが味わえるようにしよう。
 ⑥ 安全な場所や安全の確保をしながら運動に取り組もう。
 ⑦ 自他の心身の健康や安全に留意しよう。 ⑧ 健康や安全に関する知識を身に付けよう。

- ① 運動の特性を理解し、運動の楽しさ、喜びを味わうことができるようになる。
 ② 目標設定や課題解決に自ら努力するとともに、お互いに協力し合える態度が見につく。
 ③ 生涯を通じて、運動を愛好できるようになる。
- 「賢く・美しく・心身ともに逞しい芝中生」

4 評価基準と評価方法

		① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
体育分野	評価基準	<p>〈第1学年及び第2学年〉 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p> <p>〈第3学年〉 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>〈第1学年及び第2学年〉 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>〈第3学年〉 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>〈第1学年及び第2学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>〈第3学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
	評価方法	<p>知識 ・各運動、領域に関する理解度（定期テスト） ・知識を活用した運動への取り組み方（授業での観察）</p> <p>技能 ・各運動、領域の技能（実技テスト） ・練習状況（授業での観察）や学習カードを使用した記録や達成度</p>	<p>・各運動、領域の特性や目的に応じた取り組みの仕方、工夫</p> <p>・自己の課題を理解し、課題達成へ向けた運動（練習の選択場面など）への取り組み</p> <p>・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力</p> <p>・健康、安全を意識、注意する態度</p> <p>※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）</p>	<p>・授業の集合（整列・号令・話を聞く態度）から解散まで、授業の流れに沿った意欲的な取り組み</p> <p>・用具の準備や後片付け、測定や声かけなど自己の役割を果たす積極性</p> <p>・仲間を認め、一人一人の違いに応じた課題や挑戦に対する、援助、補助などの主体的な取り組み</p> <p>※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）</p>
保健分野	評価基準	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>
	評価方法	<p>知識 ・保健の知識、理解度（定期テスト）</p> <p>技能 ・実習への取り組み状況（授業での観察）</p>	<p>・生活における健康・安全についての課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、適切な方法を選択・判断できるようになる。</p> <p>・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力</p> <p>※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）</p>	<p>・心と体を一体として捉えた健康の保持増進への積極的な取り組み</p> <p>・生涯にわたって通じる健康・安全に対する課題解決に向けた自主的な学習の取り組み</p> <p>※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）</p>

第1学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り込む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>	体づくり運動	<p>(1)体ほぐしの運動</p> <p>(2)体の動き高める運動</p>	<p>① 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うことができる。</p> <p>② 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさや、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むことができる。</p> <p>③ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>④ 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	器械運動	<p>(1)マット運動</p> <p>(2)跳び箱運動</p>	<p>① マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと、それらを組み合わせることができる。</p> <p>② 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p>③ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>④ 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	陸上競技	<p>(1)短距離走・リレー</p> <p>(2)長距離走</p> <p>(3)走り幅跳び</p>	<p>① 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切り跳びることができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	水泳	<p>(1)クロール</p> <p>(2)平泳ぎ</p>	<p>① クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。</p> <p>② 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自分の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができる。</p>
	球技 I	<p>(1)バレーボール</p> <p>(2)ソフトボール</p>	<p>① ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防できる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレーを守ろうとする、作戦などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>

第1学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>	球技Ⅱ	(1)バスケットボール (2)サッカー	<p>① ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレーを守ろうとすること、作戦などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	武道	(1)柔道	<p>① 相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防ができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	ダンス	(1)フォークダンス (2)現代的なリズムのダンス (3)創作ダンス	<p>① フォークダンスでは日本民謡や外国の踊りの特徴を捉えること。現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え変化のある動きを組合せ、リズムに乗って全身で踊れること。創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にして踊ることができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流し話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
<p>(1)個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	体育理論	(1)運動やスポーツの多様性 (2)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	<p>① 学習内容(1)(2)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。</p> <p>② 学習内容(1)(2)について習得した知識を活用し、自己の課題のよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。</p> <p>③ 学習活動に積極的に取り組もうとしている。</p>
	保健	(1)健康な生活と疾病の予防 (2)心身の機能の発達と心の健康 (3)傷害の防止	<p>① 学習内容(1)(2)(3)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。</p> <p>② 学習内容(1)(2)(3)について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現している。</p> <p>③ 学習内容(1)(2)(3)について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

技術・家庭(技術分野) シラバス

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育てる。

2 学習のアドバイス

- ① 安全を意識しながら学習しよう。工具は便利な半面、使い方を間違えると危険な道具にもなります。
- ② 時間や道具を大切にしよう。集団で学習するマナーや決まりを学ぶことも大切な学習です。
- ③ 作業やそれに関わる知識と、自分の生活との接点を考えよう。

3 身に付けさせたい力

- ① 技術にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
 - ② 生活の中にある技術を適切に評価し活用する態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
- ・ 作業を通して考える授業。
 - ・ 班活動の充実。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術に関わる用語の意味、基本的な知識を理解することができる。 ・ 安全かつ正確に作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して、実践を評価・改善し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の学習に興味を持ち主体的に粘り強く取り組むことができる。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・ プリント ・ 製作品 ・ 技能テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、思考・判断・表現に関わる項目 ・ プリント ・ 振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、主体的に学習に取り組む態度に関わる項目 ・ 授業中の活動状況 ・ プリント ・ 振り返りシート

5 授業計画 —1 学年—

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
<p>・コンピュータについて理解を深める。</p>	<p>インターネット上での情報活用の利便性や安全性について考えよう。</p>	<p>・コンピュータの構成 ・コンピュータの基本的な操作 ・コンピュータをめぐる危険やモラル</p>	①	<p>・コンピュータの各部の名称及び構成を説明できる。 ・インターネットを取り巻く様々な危険について理解している。</p>
			②	<p>・情報に関する技術を適切に評価し活用している。</p>
			③	<p>・情報に関する技術について主体的に粘り強く学習しようとする。</p>
<p>・簡単なものづくりの ができ、材料や作り方の良し悪しを判断できる。</p>	<p>身のまわりを整理する作品を作 って身近な生活の問題を解決し よう。</p>	<p>・ものをつくる技術の 進歩 ・材料の性質 ・材料の加工法 ・工具や工作機械について ・構想図の描き方 ・けがき・材料取り・ 切断 ・部品の接合 ・やすりがけ ニスぬ り</p>	①	<p>・材料の特徴を理解している。 ・材料に適した加工方法を理解している。 ・等角図や第三角法による正投影図を描くことができる。 ・正しい寸法で、けがきや材料取りができる。 ・正しく部品接合ができる。 ・材料に応じた正しい仕上げができる。</p>
			②	<p>・材料と加工に関する技術を適切に評価し活用している。 ・使用目的などを考え、製作品を設計できる。</p>
			③	<p>・材料と加工に関する技術について主体的に粘り強く学習しようとする。</p>

技術・家庭(家庭分野) シラバス

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 自分の生活を振り返り、課題を見つける。
- ② 小学校での学習を再確認する。
- ③ 家族の一員であるという自覚をもち、家庭の中で自分ができるところを積極的に見つけていく。
- ④ 自分なりに工夫をすすめる。
- ⑤ 安全に気をつけて実習をする。

3 身に付けさせたい力

- ① 生活にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
- ② 生活の自立を目指し、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
 - ・学習を振り返り生活をよりよくするための自己評価カード。
 - ・自ら考えて作業を進めることができる手順書。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、改善策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・確認テスト ・ワークシート ・製作品 ・技能テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの得点の内、思考・判断 ・表現に関わる項目 ・ワークシート ・授業評価シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動状況 ・授業準備の状況 ・ワークシート ・確認テスト ・授業評価シート

5 授業計画（1学年）

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
			①	
<p>(1) 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について理解することができる。</p> <p>(2) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。</p> <p>(3) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。</p>	1 ガイダンス	(1) ガイダンス (2) 自分の成長と家族	①	3 学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。
			①	自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。
			①	家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。
	2 住居の機能と住まい方	(1) 住居の機能と住まい方	①	家族の生活と住空間とお関わりについて理解している。
			①	住居の基本的な機能について理解している。
		(2) 安全で快適な室内環境	①	家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。
			②	家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、考え工夫している。
			③	家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	3 衣服の選択と手入れ	(1) 衣服の着用と選択	①	衣服の適切な選択について理解している。
			①	衣服の計画的な活用の必要性について理解している。
		(2) 繊維の種類と日常着の手入れ	①	衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切に出来る。
②			衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方（洗濯、収納、補修、アイロンなど）について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど	

				して課題を解決する力を身に付けている。
			③	衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方（洗濯、収納、補修、アイロンなど）について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
(4)自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。	4 身近な消費生活と環境	(1)中学生の消費生活	①	物資・サービスについて理解している。
		(2)販売方法・支払方法	①	購入方法や支払い方法について理解している。
			①	消費者被害の背景とその対応について理解している。
			③	消費者被害の対応について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		(3)環境に配慮した消費生活	①	自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。
			②	自立した消費者としての環境に配慮した生活について課題を見いだして課題を設定し、考え工夫している。
			③	自立した消費者としての環境に配慮した生活について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。

英語科 第1学年 シラバス

1 教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 言葉の勉強はまず声に出す
- ② 他人の発表や発言を良く聞く
- ③ 習った表現で文を作って言えるようにする
- ④ 習った表現で文を作って書けるようにする
- ⑤ 習った表現を組み合わせ文を作れるようにする
- ⑥ 語彙や熟語を増やす
- ⑦ 予習・復習を徹底する
- ⑧ 教科書を音読する
- ⑨ ワークや問題集で定着を確認する

3 身につけさせたい力

- ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるようにする。
- ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	(知識)英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能)実際のコミュニケーションにおいて日常的な話題や社会的な話題について ① 話された内容をとらえる技能 ② 書かれた文章を読んで内容をとらえる技能 ③④⑤ 事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句を用いて伝えあう・話す・書く技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面や状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について ① 文章を聞いて要点をとらえている。 ② 文章を読んで要点をとらえている。 ③ 事実や自分の考え、気持ちなど簡単な語句や文を用いて伝えている・話している・書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手、聞き手に配慮しながら、主体的に英語で話されていること、書かれていることを聞こう、読もうとしている また主体的に英語を用いて伝えあおう、話そう、書こうとしている。
評価方法	・ 定期テストの成績 ・ 話すことに関わるパフォーマンステスト	・ 定期テストの成績 ・ 話すことに関わるパフォーマンステスト ・ 課題英作文	・ ノートやレポートにおける記述 ・ 授業中の発言 ・ 自己評価シート ・ 授業中の行動観察 ・ 小テスト

5. 1年間の学習内容 ●1年生の目標:英語を用いて、身近な場面で情報や考えなどを伝え合うことができる

単 元	学習の目標	学習内容（文法）	評価の観点と評価規準の例 (ア 知識・理解 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に取り組む態度)
<p>Let's Be Friends! 言葉で人とつながろう/英語の音とつづりを確かめよう</p> <p>Unit 1 Here We Go! 人の情報を聞き取る/自己紹介カードを書く</p> <p>Unit 2 Club Activities 好みや得意なことを聞き取る/好きなことなどをたずね合う</p> <p>Unit 3 Enjoy the Summer インタビューの内容を聞き取る/アンケートをとる</p> <p>Unit 4 Our New Friend 人の情報を聞き取る/身近な人を紹介する</p> <p>Unit 5 This Is Our School 学校公開の案内状を読む/お気に入りの施設をたずね合う</p> <p>Unit 6 Cheer up, Tina 紹介文を読む・書く</p> <p>Unit 7 New Year Holidays in Japan はがきを読む・書く</p> <p>Unit 8 Getting Ready for the Party その場の状況を聞き取る/写真のキャプションを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語と日本語の違いに慣れアルファベットを正しく声に出して読んだり、書くことができる 自己紹介をすることができる 相手のことについて尋ねることができる 自分ができることについて伝えることができる 自分の好きな事について話すことができる 相手の好きな事について尋ねることができる 何が〜か、などをたずねたりすることができる 自分と相手以外の人やものなどについて話すことができる 自分と相手以外の人やものなどについてたずねることができる いつできるかを尋ねることができる 時刻などについて尋ねることができる どこにあるのか、誰のものなのかたずねることができる 相手に何かを禁止したり、注意を促したりすることができる 知らない人やものなどについて尋ねることができる 自分と相手以外の人や物などについて対話を続けることができる 過去の出来事について話すことができる 過去の出来事について尋ねることができる。 今していることについて話したり、たずねたりすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆アルファベット、数字、月、曜日等 ◆I am ◆I like...,I don't like... ◆I can..., I can't... ◆Are you...? Do you...? Can you...? ◆What do you ...? ◆I want... ◆How many...? ◆He(She) is..., Who is...? ◆Where , When, Whose などの疑問詞 ◆命令文 ◆三人称単数現在形 (肯定文) ◆三人称単数現在形 (疑問文と応答) ◆動詞の過去形 ◆現在進行形 ◆It looks ... 	<p>ア. アルファベットの文字とそれが含まれる単語を正しく書くことができる。(W)</p> <p>ウ. 積極的に自己紹介をしようとしている。(SP)</p> <p>イ. 自分のことについて、簡単な語句を用いて伝えることができる。(SP)</p> <p>イ. 相手のことについてたずねることができる。(SI)</p> <p>ウ. 相手のことについてたずねようとしている。(SI)</p> <p>U. be 動詞、一般動詞の形・意味・用法・区別に関する知識を身につけている。(W) (S)</p> <p>ウ. 自分が知らないものについて積極的に質問をして対話を続けようとしている(SI)</p> <p>イ. 指示したり、提案したりすることができる。(S)</p> <p>イ. 相手に何かを禁止したり、注意を促したりすることができる。(S)</p> <p>イ. 話し手の友達や家族についての紹介を聞いて、その情報を聞き取ることができる。(L) (S)</p> <p>イ. 話し手の友達や家族についての紹介を聞いて、その情報を聞き取ろうとしている。(SI)</p> <p>ア. 三人称単数現在形の肯定文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。(W) (S)</p> <p>イ. 過去に体験したことについて話したり書いたりたずねたりすることができる。(S) (W)</p> <p>ア. 動詞の過去形の形・用法に関する知識を身につけている(S) (W) (L)</p> <p>ア. 現在進行形の文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。(W) (S)</p> <p>イ. 今していることについて話すことができる。(S)</p>